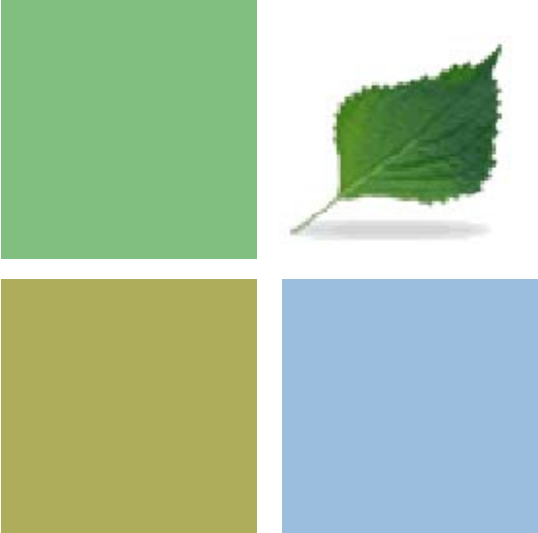


証券コード4526



理研ビタミン株式会社



2008年3月期 決算説明会

2008年5月30日

www.rikenvitamin.jp

2008/3月期 決算の概要



セグメント、部門別売上高(連結)



(億円)

セグメント	部門	07/3月期 実績		08/3月期 実績		前期比
		売上高	構成比	売上高	構成比	
食品事業		686	84.9%	682	84.4%	99.3%
	家庭用食品	186	23.0%	177	22.0%	95.3%
	業務用食品	119	14.8%	115	14.3%	97.1%
	加工食品用原料	200	24.8%	189	23.5%	94.5%
	食品用改良剤	180	22.3%	198	24.6%	110.3%
化成品事業		61	7.6%	66	8.2%	108.8%
ビタミン・その他事業		60	7.5%	59	7.4%	98.9%
合 計		808	100.0%	808	100.0%	100.0%



セグメント別増減 「食品事業」



家庭用食品

前年同期比 **△8.6億円**

- わかめ **△5.0億円** (うち生食めかぶ **△4.3億円**)
- 素材力 **+1.6億円**
- ドレッシング **△3.0億円** (ロングセラー品「青じそ」の落ち込み響く)
- ノンオイル **△1.6億円**

業務用食品

前年同期比 **△3.4億円**

- わかめ **△2.7億円**
(外食惣菜向け「生わかめ」・「冷凍めかぶ」がダウン)

加工食品用原料

前年同期比 **△10.9億円**

- 青島福生品(水産加工事業) **△10.0億円**
(低採算品目の整理を実施)

食品用改良剤

前年同期比 **+18.6億円**

- 国内 **+9.6億円** (積極的な新規需要開拓により)
- 海外 **+8.9億円** (国内・海外ともに伸長)



セグメント別増減 「化成品事業」、「ビタミン・その他事業」



化成品事業

前年同期比 **+5.3億円**

- 国内 **+0.9億円**
- 海外 **+4.4億円** (販社新設による台湾・韓国での市場開拓が寄与)

ビタミン・その他事業

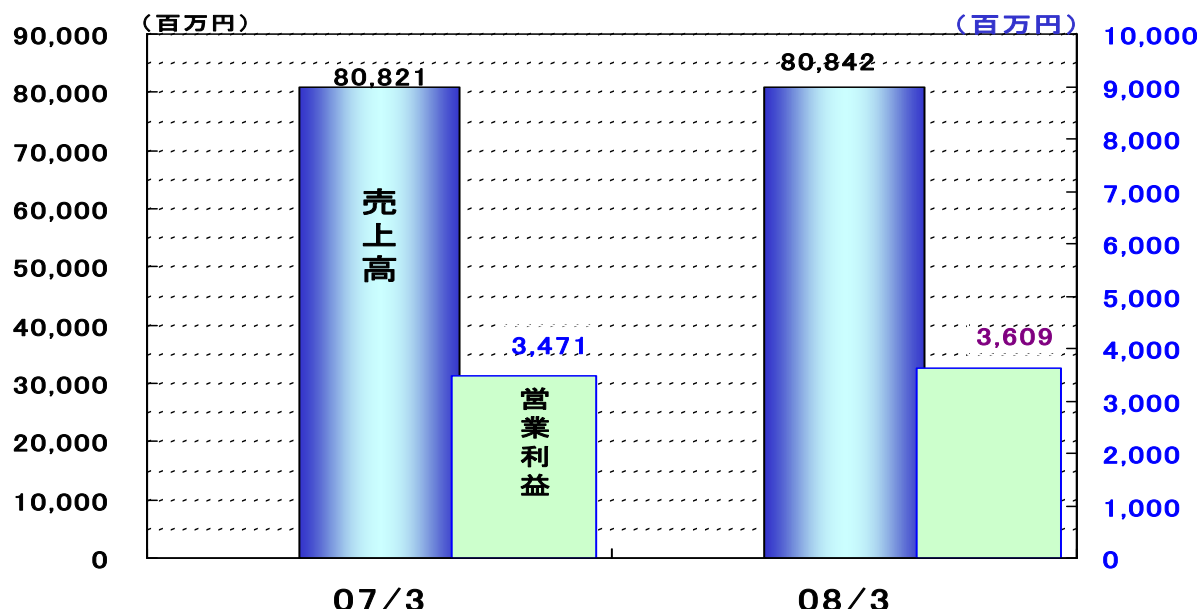
前年同期比 **△0.6億円**

- ビタミン**E**
 - ☆ 医薬用は低迷が続くも、食品用はサプリメント用途の好調を受け伸長。
- 電子精密部品関連
 - ☆ IT業界の在庫調整の影響を受けダウン。

08 / 3月期 決算ハイライト (連結)

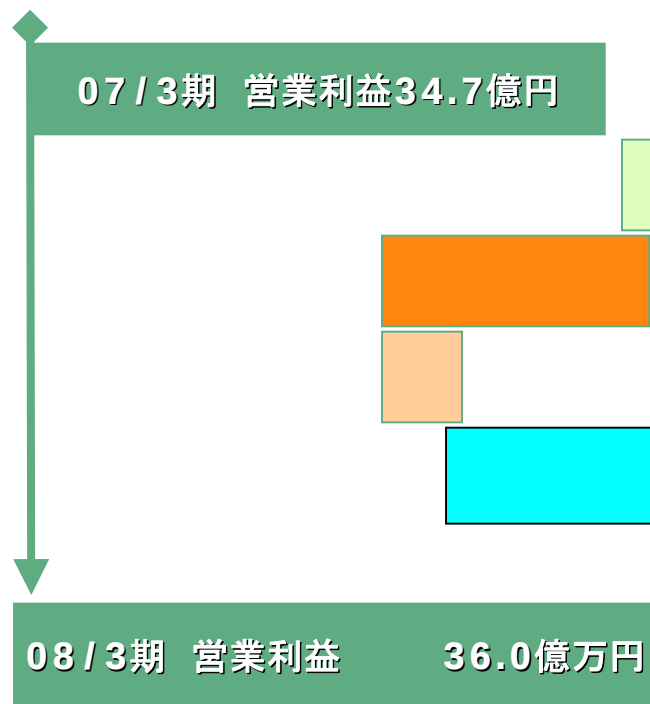


	07 / 3月期		08 / 3月期		伸長率(%)
	(億円)	対売上比(%)	(億円)	対売上比(%)	
売上高	808	—	808	—	0.0
粗利益	244	30.2	234	29.0	△4.0
販管費	209	25.9	198	24.5	△5.3
営業利益	34	4.3	36	4.5	4.0
経常利益	34	4.2	38	4.7	10.9
純利益	20	2.5	22	2.8	12.7





営業利益増減要因分析



売上の増加 = +0.2億円

原材料費の増加 = △14.3億円

工場経費の削減 = +4.4億円

販管費の削減 = +11.0億円

＊**原材料購入価格の大幅な上昇を**

①**販売価格値上げ**

②**ローコストプロダクション（製造固定費の圧縮）**

③**販売管理費（販促費）の削減**
で吸収努力。

⇒**営業利益は、前年を上回る。**



貸借対照表の主な増減科目（連結）



〔資産の部〕

（億円）

科 目	07/3月期 期 末	08/3月期 期 末	増 減 前期末差
流 動 資 産	455	444	△11
受取手形及び売掛金	199	189	△9
固 定 資 産	473	420	△53
有形固定資産	272	275	+2
無形固定資産	10	10	+0
投資その他	190	134	△56
■ 合 計	929	865	△64

（前期）
期末金融機関
休日の影響

△5

株式等の
時価評価額の
減少

△45



貸借対照表の主な増減科目(連結)



科 目	07/3月期 期 末	08/3月期 期 末	増 減 前期末差
流 動 負 債	254	217	△36
支払手形及び買掛金	99	87	△11
短期借入金	76	67	△9
固 定 負 債	72	62	△10
長期借入金	9	18	+8
繰延税金負債	42	24	△17
■ 負債合計	327	279	△47
■ 純資産合計	602	585	△16
■ 合 計	929	865	△64

〔負債・純資産の部〕

(億円)

(前期)
期末金融機関
休日の影響

△17

子会社における
借入 と 返済

株式等の時価評価額の
減少

△18

株式等の時価評価額の
減少

△26

キャッシュフローの状況(連結)



(億円)

	07/3月期 -前期-	08/3月期 -当期-	対 前年比
営業活動による キャッシュ・フロー	66 (53)	48 (62)	△ 17 (9)
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 55 (△58)	△ 47 (△45)	8 (13)
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 11	△ 9	2
現金及び現金同等物 の期末残高	103 (88)	100 (100)	△ 2 (13)

注) カッコ内は、
前期末日・
金融機関
休日の影響
調整後の額

[キャッシュフロー
の増減要因]

投資活動

有形固定資産の取得
による支出の減少に
より、キャッシュ増加。

2009/3月期 業績の見通しの概要





09 / 3期事業計画(連結)



	08/3月期 実 績	09/3月期 予 想	前期差 前期比
売 上 高	808	840	31 103.9%
粗 利 益	234	234	△0
(対売上比)	29.0%	27.9%	99.8%
販 売 管 理 費	198	199	0
(対売上比)	24.5%	23.7%	100.4%
営 業 利 益	36	35	△ 1
(対売上比)	4.5%	4.2%	97.0%
経 常 利 益	38	35	△ 3
(対売上比)	4.7%	4.2%	91.9%
純 利 益	22	22	△0
(対売上比)	2.8%	2.6%	97.4%

(億円)

内、**海外売上高**
145億円
(連結売上高に
占める割合17.3%)

<参考> 海外売上高推移

前 期(08/3期)
132億円 (割合16.4%)

前々期(07/3期)
125億円 (割合15.5%)

セグメント別売上計画(連結)



(億円)

セグメント	部門	08/3月期 実績		09/3月期 通期予想		前期比
		売上高	構成比	売上高	構成比	
食品事業		682	84.4%	701	83.5%	102.9%
	家庭用食品	177	22.0%	174	20.7%	98.1%
	業務用食品	115	14.3%	122	14.6%	105.6%
	加工食品用原料	189	23.5%	185	22.1%	97.7%
	食品用改良剤	198	24.6%	219	26.1%	110.5%
化成品事業		66	8.2%	76	9.1%	114.4%
ビタミン・その他事業		59	7.4%	62	7.4%	104.1%
合 計		808	100.0%	840	100.0%	103.9%



セグメント別営業利益計画(連結)



(億円)

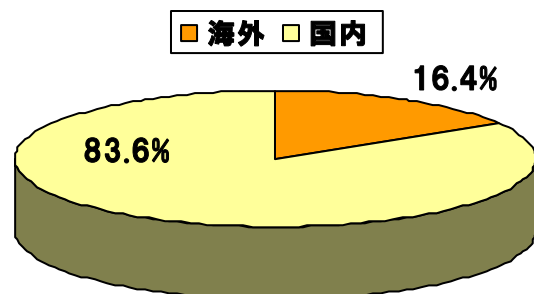
セグメント	08/3月期 実績		09/3月期 通期予想	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
食 品 事 業	682	26	701	26
化 成 品 事 業	66	4	76	4
ビタミン・その他事業	59	5	62	5
合 計	808	36	840	35



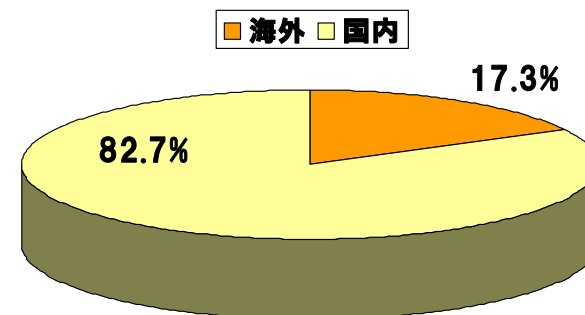
地域別売上高計画(連結)



08/3月期 海外売上高比率



09/3月期 海外売上高比率(計画)



(億円)

地 域 別	06/3月期・実績	
	売上高	構成比
欧 米	70	8.9%
アジア・その他	38	4.8%
海外・計	108	13.7%
国 内	681	86.3%
連結・合計	790	100.0%

07/3月期・実績	
売上高	構成比
79	9.8%
46	5.7%
125	15.5%
683	84.5%
808	100.0%

08/3月期・実績	
売上高	構成比
77	9.6%
55	6.8%
132	16.4%
675	83.6%
808	100.0%

09/3月期・予想	
売上高	構成比
80	9.5%
65	7.8%
145	17.3%
694	82.7%
840	100.0%

1) 世界経済

①サブプライム問題 ⇒ 米国経済の減速
⇒ 予断を許さない為替・金利動向

②食糧資源

新興国の需要増大・バイオエタノール向け需要増
⇒ 「量」「価格」両面で厳しさ増す

2) 日本経済

世界経済の影響下で厳しい環境

⇒ 原油高騰 → 一層のコストプッシュへ

3) 食品業界

- ①少子高齢化・家計引締めの中での競争激化
- ②原油・油脂/穀物を中心とする原材料相場の高騰
- ③相次ぐ「食の安全性」を脅かす問題

⇒ 食品業界は、激動の時代

◇未曾有の原材料価格高騰

油脂・わかめをはじめとする
キー原材料 が軒並み高騰

⇒ 09/3月期の総原材料費上昇見込

(前期比) 10～12% up

(2倍のup率)

◇08/3月期の上昇額(前期比)は、5～6% up



< 1 > 製品値上げの実施

< 2 > ◇差別化された 〔新商品〕開発

⇒ 新市場の創出

◇ 〔既存商品〕用途開発・メニュー提案

⇒ 新規需要の創造

< 3 > 海外事業の強化

⇒ 改良剤事業を中心に、重点エリアでの市場開拓

< 4 > 原価低減

⇒ VA/VE・代替原料開発・工場経費管理の継続的推進

< 5 > 経費管理の徹底

⇒ 販売促進費の効率的運用の推進

09
／
3
月
期
の
利
益
計
画
の
達
成
！



< 1 >

コア事業（海藻関連・ドレッシング・調味料/エキス・改良剤）
を

【 世界規模での市場の変化に対応した
スピード感のある経営で推進 】

< 2 >

付加価値・収益型製品分野の拡大を継続推進

< 3 >

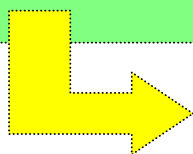
利益貢献を重視した**製品分野**の
「**選択と集中**」を一層強化



海藻関連事業

<1>

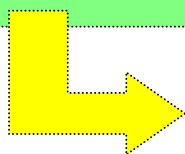
わかめ原藻の**高騰** ・ タイトな原料状況



製品値上げの確実な実行！

<2>

差別化された**新商品開発** （確かな品質に裏打ちされた商品）



新市場創出とシェアアップ！

<3>

顧客ニーズにマッチした製品の見直し（**リニューアル化**）

海藻のリケン

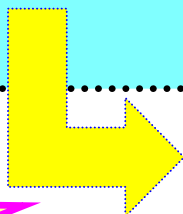
新組織「海藻事業推進部」による強力推進！

ドレッシング事業

<1>

ノンオイル スーパードレッシング「青じそ」

⇒ 発売20年目！



ブランド強化に向け、販売促進策を展開！

注目！

メタボリック症候群・健康診断義務化 → 健康志向の高まり
⇒ 『ノンオイル・ドレッシング』に注目！

<2>

周辺商品の開発 と ラインアップ強化

⇒ シェア拡大！

<3>

用途開発・メニュー提案の強化 ⇒ 新規需要の拡大！
(TVCM等で、積極展開)

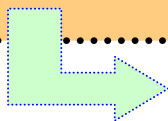


事業計画達成のための重点施策(3)



調味料/エキス事業

<1> 米国（ガイモン）ポークエキス事業の一層の推進



生・販・開の連携による事業推進！

<2> 「**素材力だし**(※)」の販売強化！

(2000年に新発売以来、売上伸長を続ける商品)

(※) 化学調味料・食塩 無添加の和風だし。

推進！

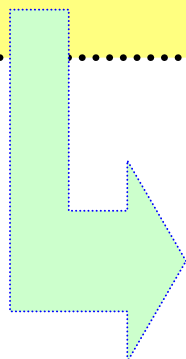
新組織「天然エキス調味料事業推進部」

⇒事業拡充に向け強力推進！



改良剤事業

ニーズにマッチした
高付加価値製品を国内外市場へ！



◇国内 ⇒ ①既存系製品の改良 ⇒ 拡販へ
②差別化された新製品の確実な実績化

◇マレーシアにおける改良剤製造設備の新設・増設

*生産能力 41,000 t /年

世界トップクラスの乳化剤生産体制へ！（国内外合計）

海外グループ会社

生産系

- | | | |
|--------------|-----------|-----------|
| ◇リケビタ・マレーシア | (1991年設立) | .. 改良剤 |
| ◇天津理研維他食品 | (1993年設立) | .. 餡・改良剤 |
| ◇青島福生食品 | (1995年設立) | .. 加工食品原料 |
| ◇大連西山理研食品 | (1990年設立) | .. わかめ |
| ◇大連理研マルハ | (1995年設立) | .. わかめ |
| ◇理研食品(大連) | (2003年設立) | .. わかめ |
| ◇ガイモンエクストラクツ | (2004年設立) | .. ポークエキス |

海外グループ会社

販売系

＜欧州（東欧ロシア含む）・アフリカ・南米＞

◇リケンビタミン・ヨーロッパ（2003年設立）

＜北米・中米＞

◇リケンビタミンUSA（2004年設立）

＜東南アジア・オセアニア・中近東＞

◇リケビタ・シンガポール（1994年設立）

＜中国＞

◇理研維他精化食品（2005年設立）

＜台湾・韓国＞

◇理研維他亜細亜（2006年設立）

『生・販・開』一体の市場開拓

＜最重点テーマ＞

改良剤分野での川中・川下市場への本格進出

シンガポール
天津
の
アプリケーション
センター
積極活用

生 産

マレーシア工場
本格稼動

高付加価値製品
の
販売強化

各エリアでの
市場調査に基づく
販売活動

開 発

販 売

エリア戦略

バイオ可塑剤

◇欧州

- 西 欧・・・高機能蒸留製品拡販
- 東欧/ロシア・・・新規顧客開拓

◇米 州

- 北米・・・深耕販売市場シェアUP
- カナダ/メキシコ・・・新規顧客開拓

◇アジア/オセアニア

- 製剤品の差別化による拡販
- インド/中近東・・・新規顧客獲得による拡販

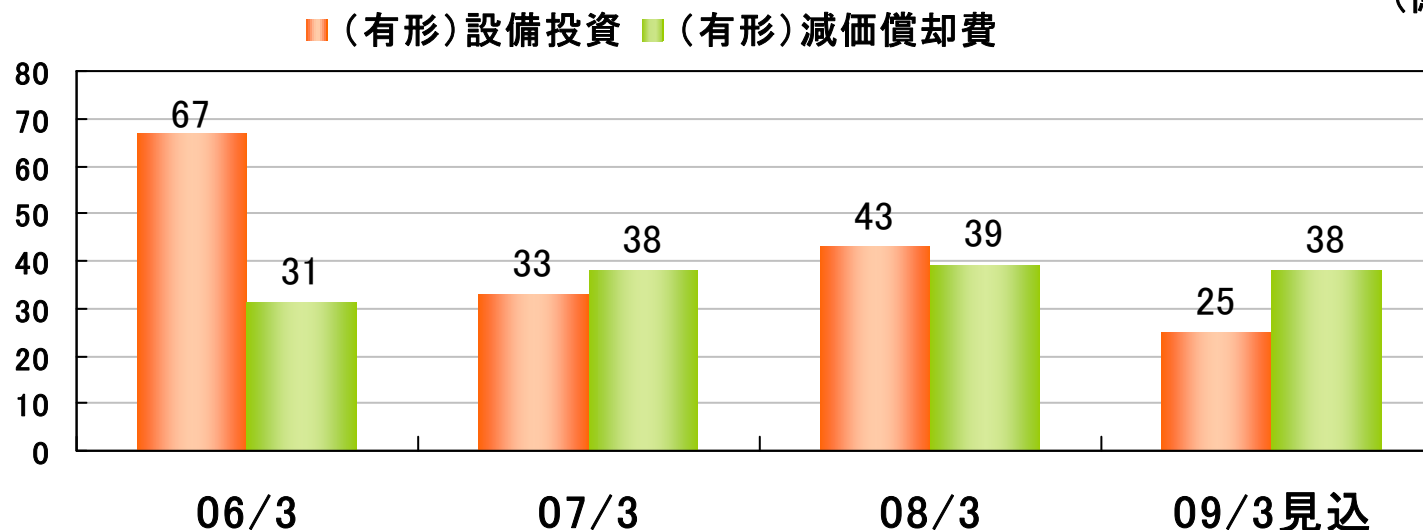
海外売上高145億円へ



設備投資及び減価償却計画(連結)



(億円)



◆ (有形)設備投資額 と 減価償却費

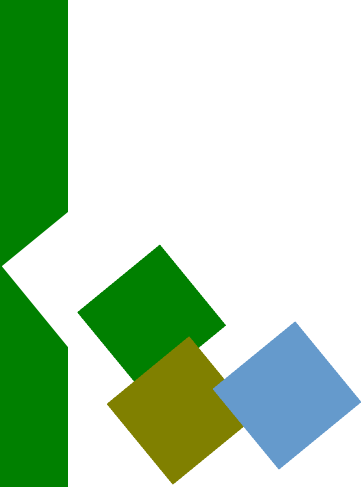
	08/3月期 (実績)	09/3月期 (当期見込み)	前期差
(有形)設備投資額	43	25	△ 18
(有形)減価償却費	39	38	△0

08/3月期

- ① マレーシア第3次増設
- ② 中国大連 工場建設

09/3月期

投資回収に向け
本格稼働の期。



この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

お問い合わせ先

経営企画部
毛塚、相原まで
TEL 03-5275-5835

